

明石市第5次長期総合計画 骨子(案)の概要

序論

- 1 計画策定の趣旨と基本姿勢
- 第4次計画の期間満了に伴い、第5次計画を策定。
  - 将来ビジョンや、その実現のための基本的な方針を示す。(具体の施策・事業の展開は個別計画で)

- 2 計画の構成と期間
- 基本構想と戦略計画で構成。10年計画。

3 計画策定の背景

社会潮流

- 人口減少社会の到来、少子高齢化の著しい進展、低成長が続く経済。
- 地球環境の悪化、情報通信技術の発展、人や制度のグローバル化。
- 心の豊かさの重視、緩やかなつながりを求める意識など価値観の変化・多様化。
- 地方分権の進展、公共サービスの担い手の多様化、厳しい財政事情。

地域特性

- 山林の少ない平坦な地形、大都市近郊、交通の要衝であり、利便性が高い。
- 温暖な気候で、海の恵み、自然の豊かさがある。日本標準時を伝える。
- コミュニティのよさが残る。

基本構想

1 まちづくりの基本方向

理念

一人ひとりを尊重し、すべての人の幸せを追求すること。

「安全に、安心して暮らせるまち」「賑わいや活力があるまち」「自然・歴史・文化をいかし個性があるまち」、このようなまちを、「人が育ち、人がつながって」つくる

基本認識

- 人口や経済が右肩上がりに伸びない
- 将来の見通しが不透明で、社会全体に漂う閉塞感
- 安心が揺らぎ、活力が減退している

明るい未来への展望をひらく

- 原動力は、明石に暮らし、明石で活動する多様な「人」
- まちを支える人を大切に、人が育っていくことが重要

2 10年間のまちづくりの目標

(仮)人もまちも豊かに育ち続ける 未来安心都市・明石

人が集まり、つながり、成長できるような、人が豊かに育つまちをつくる。そして、明るい希望を持てる安心なまちを築き未来に引き継いでいく。

将来人口  
概ね29万人をめざす

都市空間  
自然の豊かさと都市の利便性を磨き、  
安らぎ、賑わいをもたらす空間をつくる

3 目標の実現に向けて

まちづくりの展開手法

- ・ 参画と協働を進める
- ・ 既存ストックをいかす
- ・ 広域的な視点をもつ

この資料は平成22年9月20日に開催された  
第7回明石市第5次長期総合計画策定審議会の資料より抜粋したものです。

戦略計画

1 重点戦略

着眼点

子どもの健やかな育ちで、みんなの元気を生み出す

人やまちの成長は、今の子どもたちがどう成長したかに現れる。  
子どもの健やかな育ちにみんなが関わり、みんなですっきりと支える。  
それにより、若い世代にとっての魅力を高め、その流入につなげる。  
また、高齢者をはじめ、あらゆる世代の暮らしよさを高め、元気を生み出す。

内容

戦略1 安全・安心を高める

安全で安心して暮らせる環境を高め、みんなの不安解消につなげる

- 日常生活の安全性を高める
- 非常時への備えを万全にする
- 健康に暮らせる期間を延ばす
- 共に生きるための支えあいを充実する

戦略2 自立した温かい地域をつくる

地域自らつながりのある温かい地域をつくり、みんなのより豊かな育ちや暮らしをうみだす

主体的な地域活動、市民活動を支える

戦略3 明石らしい生活文化を育てる

明石を知り、感じることができる環境をつくり、みんなの魅力的な暮らしにつなげる

- 自然、歴史、文化に身近に感じる環境をつくる
- 環境負荷を少なくする
- スポーツや文化活動で心身を充実する

戦略4 まちを元気にする

将来に希望を持てる元気なまちにすることで、みんなの活力をうみだす

- 中心市街地の魅力を高める
- 地域産業を元気にする
- 明石ならではの魅力を創出し発信する

戦略5 保育・学びを充実する

子どもの保育、学びの環境をはじめ、生涯にわたって学べる環境を整え、みんなが成長する

- 多様な子育てニーズに対応する
- 質の高い教育を推進する
- 生涯現役社会をつくる

2 計画推進の考え方

行政経営の展開

- ・ 市民満足度を高める
- ・ 効率的で無駄をなくす
- ・ 多様な主体の力を活用する
- ・ 参画と協働の推進
- ・ 自立した地方行政の推進
- ・ 市民ニーズに対応した行政経営
- ・ 組織力、職員力の向上
- ・ 健全財政の推進

計画推進のマネジメント

- ・ 個別計画の策定と推進
- ・ 実行計画の策定を通じたPDCAによる進行管理